

はじめに

ハザードマップは、「災害予測地図」、「防災地図」と訳されます。洪水・土砂災害がおりやすい地域はどこか、危険性が迫った場合に、避難情報はどうやって入手するか、そして、どこに避難するのか、住民の皆様に周知するために、水防法、土砂災害防止法に基づき作成されています。

洪水・土砂災害は、様々な情報によりある程度予測できます。そのため、普段から情報の種類や入手先を確認し、情報をもとにいつ避難するか、地域の人と話し合い、逃げ時を地域の人たちで決めておくこと（防災スイッチ）が重要です。

ハザードマップの情報は、すさみ町のホームページでもご覧になれます。ご家庭のパソコン、スマートフォンなどでご確認ください。

もくじ

1. どこが危険か知っておきましょう	2
1.1 水害の場合	2
1.2 土砂災害の場合	2
2. 洪水・土砂災害からの逃げ時を考えましょう	3
2.1 提供されるさまざまな情報	3
2.2 情報の伝達経路と取得する手段	3
2.3 周辺の異常を監視しましょう	4
3. 被害を少しでも減らしましょう	5
3.1 分散避難という方法	5
3.2 避難経路を考えましょう	5
3.3 保険・共済への加入	5
4. いざという時、慌てないように備えましょう	6
4.1 非常用持ち出し袋	6
4.2 備蓄品	6
4.3 感染予防対策	6
5. 怪我に備えましょう	7
5.1 応急手当を学びましょう	7
5.2 心肺蘇生法を学びましょう	7
6. 避難生活を安心して過ごしましょう	8
6.1 災害時も感染症に気をつけましょう	8
6.2 「三密」を避けましょう	8
浸水継続時間が長い区域で、立退き避難を行わなかったときは？	8
7. ハザードマップ	9
7.1 地図(索引図)から探す	9
7.2 一覧から探す	9
7.3 凡例について	10
Web版ハザードマップ	10

緊急時の連絡先・家族の緊急連絡メモ・周参見川／雨量防災情報・
防災わかやまメール配信サービス・災害用伝言ダイヤル(171)の使い方 裏表紙

1. どこが危険か知っておきましょう

1.1 水害の場合

氾濫水は勢いが強い

氾濫水は、勢いが強く水深がひざ程度あると大人でも歩くのが困難です。ハザードマップで、氾濫し、浸水が深くなる場所が避難経路上にないか確認しましょう。



氾濫水は濁っている

氾濫水は、茶色く濁っており、水路と道路の境や、ふたが外れたマンホールの穴は見えません。ふだんから、避難するときに危険な箇所がないか見て歩き、地図に書き込んでおきましょう。



- 水防法で定められた水位周知区間における浸水想定区域図を元に浸水エリアを示していますが、それ以外のエリアでも浸水する場所があります。
- 浸水想定区域図は、破堤が想定される箇所それぞれ1か所破堤した場合の浸水状況を重ね合わせたものであり、全域が同時に浸水するわけではありません。

1.2 土砂災害の場合

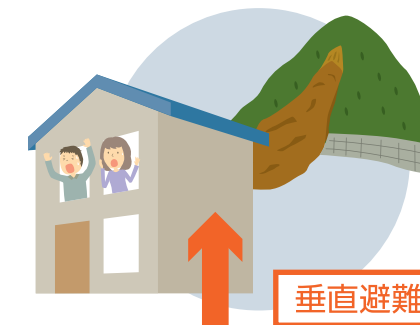


急な傾斜地の崩壊、土石流に襲われると大量の土砂が押しよせてきます。土砂災害の危険がある場所から離れることが重要です。



横方向(水平)に避難

土石流やがけ崩れの起こる方向に対して横方向(水平)に避難が有効です。地図で逃げる方向を確認しておきましょう。



垂直避難

屋外への避難が困難な場合は、2階以上の階へ移動し、斜面とは反対側の部屋に移動してください。

- 土砂災害警戒区域等においては、特に雨が強く降り続く(1日以上)場合は、土砂災害の発生の可能性が高くなっています。
- 警戒区域の指定されていない箇所でも、土砂災害の発生は起こりえます。

※津波については、「すさみ町津波ハザードマップ」をご覧ください。